

AAC株式会社 代表取締役

# 浅香忠満

Tadamitsu Asaka

[ 生涯現役、定年は自分で決める。 ]



## 略歴

山口県下関出身。

1983年、新卒で富士ソフト（当時ABC）に入社し、伊藤忠テクノソリューションズ（CTC、当時CDS）に派遣勤務。同時に3次元CADも始めて製造業ITを開始。

1985年、CTCのCAD専門子会社（CADOC）にスカウトいただいて入社し、その後CTC本体に吸収。

（CTCの社員はCADOCから。）

製造業ITを継続し、2012年からは製造業DX（IoT/AI）にも進化。

2020年、CTCを60歳で定年退職した後、AAC（アアク）株式会社に従事。

2021年、AAC株式会社の代表取締役となり、製造業DXを継続。

2022年、ITは42年目、製造業IT & DXは39年目を迎える。

## 現在の仕事について経緯

父からは私が10代の頃から「お前は次男だから、いずれ家を出て、自分の足で歩け」と言われて育ちました。独立心はこの頃から芽生えています。

10代後半で自分の人生を考えた時、「これからはコンピュータだ」と考え、コンピュータの世界に入りました。当初は製造業への道も考え、自動車業界も模索しましたが、「内燃機関はいずれ限界が来る」と感じた為、未練を残しながらも製造業への道は一旦諦めました。

20歳でコンピュータを始めましたが、23歳の時に製造業とコンピュータの両方を生かせる仕事があることを知りました。上司、先輩、担当業務等、周囲の環境に恵まれたこともあって、23歳で製造業ITで生きて行くことを決め、「これに人生をかけよう」と決心しました。（この頃から「いつか会社を作るかも」という思いも生まれました。）

CTC入社以来、社内ベンチャー制度やビジネスアイデア募集を通じて起業のチャンスを伺いましたが、担当業務の都合もあり、結局定年までいました。（社内ベンチャーの応募では役員プレゼンで「社内でやるように」と当時の担当役員に言われ、ビジネスアイデア募集応募では優勝、入賞したこともあります。）

新卒以来、製造業ITやその後の製造業DXが私のライフワークになった為、150歳まで健康に生きて、生涯現役で製造業DXを続ける所存です。

幸い、健康にも恵まれており、62歳の現在でも生涯病欠は2日間なので、意気込だけでなく、実現可能性もゼロではないかもしれません。

## 仕事へのこだわり

私はIT技術者、IT会社経営者として以下のようなこだわりがあります。

- 1.製造業（業務）とITがわかる技術者、会社であること。
  - 2.製造業のQCDVSGをITでご支援させて戴くこと。
  - 3.課題ありきでコンサルティングからSIにつなげて行くこと。
  - 4.製造業ITから製造業DXの業務改革を通じて製造業及び社会に貢献すること。
  - 5.ニーズに答えてシーズを先取りしたグランドデザインをお客様と考えること。
- などです。

IT業界では業務とITの両方に長けた技術者は多くはいません。中でも製造業のエンジニアリング系システムになると、急激に技術者が減ります。しかし当社は、製造業とITの両方がわかる技術者を集めています。個々の業務システムを考えた時、両方がわからないと、経営層、管理層、実務層などが望むシステムは出来ないからです。

これまでの製造業はQCDの向上を追及して来ましたが、これからの製造業はQCDに加えてVSGへの対応も必要と考えています。（Vは付加価値、Sはサービス化、Gは環境対策です。VSGは私の造語です。）

私自身QCDVSGを実現する技術者であり続けたいですし、当社は製造業を中心にQCDVSGをお客様にご支援出来るIT会社であり続けたいと考えています。

対応業務もコンサルティングからSIまでを対象にしています。

コンサルティング業務には道義的責任はあるものの、契約上の責任はなく、必ずしもシステム化、業務効率化、業績拡大へのシナリオが描かれていないケースもあるからです。

業務姿勢も、“課題ありきのコンサルティングからSI”にこだわっています。

経営課題、業務課題、システム課題など、各種課題を解決する為のコンサルティング、システム構築であるべきと考えているからです。

目的を明確にしないと、困難に陥った時、「そもそも、何の為にこれを行っているのか、目的に合致しているのか」という自問自答が始まります。この時、当初の“課題”が明確になっていないと、プロジェクトが迷子に陥ります。

企業が生き残る為には、活用する技術も単なるデジタル化（製造業IT）だけでなく、変革を伴うデジタル化（製造業DX）が必要不可欠であり、その上で現状業務や現状システムを見直しして、経営課題や業務課題の解決の為にあるべき姿、ありたい姿を実現する業務改革が必要になります。

IT会社にはユーザーズに応えることは無論、時代をリードすべきミッションもあると考えており、先々を見据えたシーズも取込み、確かなグランドデザインをお客様と一緒に考える技術者、IT会社であり続けたいと考えています。

## 若者へのメッセージ

やりたい仕事を見つけて自分の生きる道を探して下さい。

それが見つかったら人生の半分は成功です。

道を決めたら、突き進んで行き、ノイズもうまくかわして頑張ってください。

## URL

<http://www.aac-g.co.jp/>